

# 図 書 館

～本との出会いの場所～

51期生

## I テーマ設定の理由

昨年の夏ごろから、図書館に行って、よく本を借りるようになりました。それまでは、なかなか本も見つからないし、とても面倒臭い所だと思っていましたが、コンピュータでの本の検索、他館からの本の取り寄せ、と上手く使えば、便利なところだと分かり、そんな図書館について、もっと調べてみたいと思ったからです。

## II 研究方法

- (1) 文献調査 図書館の歴史・現状、そして、理想の図書館とはどのような所かを調べる。
- (2) 現地調査 いくつかの、市立・府立の図書館に行き、設備面などの違いを調べる。また、図書館員さんから、お話を聞き、パンフレットをもらう。
- (3) 考 察 調べたことをもとに、自分で、理想の図書館を考えてみる。

## III 研究内容

### 1. 図書館の歴史 -市民の図書館 日野市立図書館-

今の図書館のスタイルの基礎を築いたのが、1965年に開館した、日野市立図書館です。それまで、日本では図書館という所は「普通の人」とっては無縁の場所でした。どのような図書館でも「あればいい」という考え方で、図書館のない市や町もたくさんありました。数少ない図書館の閲覧室は、学生の勉強室と化していたようですし、本を借りるのに、お金がかかると思っていた人も少なくなかったそうです。

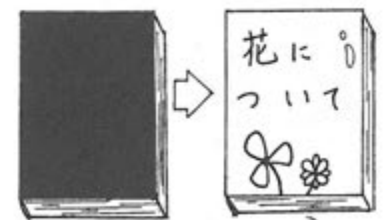
そして、こんな日本の図書館を何とかしなければ……という動きの中で、日野市立図書館は、たった1台の移動図書館車で始まりました。全市民の身近なところに図書館をつくるのは、すぐにはできないので、という考えと、移動図書館の存在自体が図書館とは何か、ということ町中に知らせる宣伝となるのでは、という思いからだったようです。

-日野市立図書館で新しくなった点-

#### (1) 本のカバー

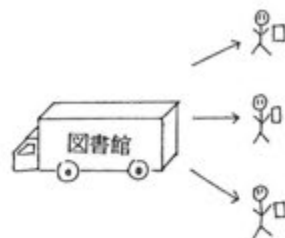
本に悪いから、と本のカバーを取って、どれも同じように、黒くカバーをしていました。それを本のカバーを取らずに、上からビニールシートをはりました。今は、本のためのビニールシートがありますが、このころはそのようなものはなく、農業でつかうビニールハウス用のビニールを本のサイズに切って、接着剤でいちいちとめていたそうです。

▼図1

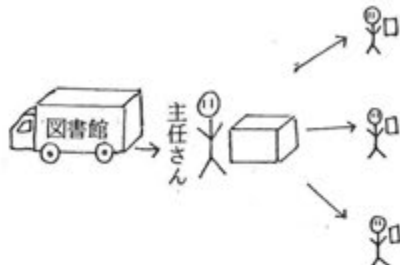


(2) 本の貸出しの仕方

それまでは、移動図書館という、その地区の主任さんがまとめて借りて、それを個人に貸す、という「団体貸出し」が主流でしたが、そ



▲図2 個人貸出し



▲図3 団体貸出し

それを個人個人が直接図書館から本を借りる「個人貸出し」という方法にしました。

また、貸出し方法をイギリスで学んだ「ブラウン方式」にしました。この方法はアメリカの図書館員、ブラウンさんによって考案されたものです。

～ブラウン方式～

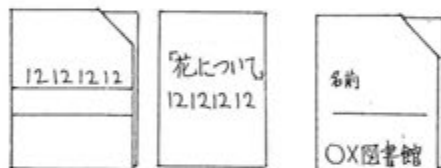
本には、ブックポケットと、デートストリップを貼り、ブックポケットには、ブックカードを入れておきます。そして、ブックポケット・ブックカードには、書名と図書の登録番号を記入しておきます。

利用者は、自分の貸出券（袋状）に借りる本のブックカードをはさんで、図書館員にわたします。図書館員は、それを返却期限日ごとに並べて保存しておきます。返却する場合は、ブックカードを本にはさみ、貸出券を利用者に返します。

利点・利用者のプライバシーを守れる

- ・貸出時に何も書かなくてよい
- ・予約の処理が行える

欠点・利用者の増加についていけない

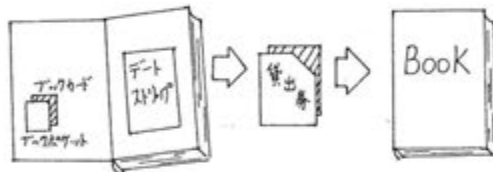


▲図4 ブックポケットとブックカード

▲図5 貸出券

▲図6 デートストラップ

▼図7 ブラウン方式



2. 今の図書館



←大阪府立中央図書館

今回の調査では、大阪市立中央図書館・東住吉図書館・阿倍野図書館・大阪府立中央図書館・中之島図書館に行き、お話を聞きました。

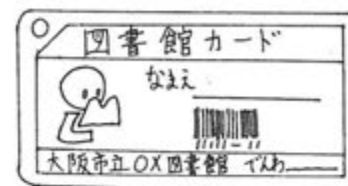
まとめるにあたって、5つの図書館の中で1番設備の充実していた、大阪府立中央図書館を主におきたいと思います。

(1) コンピュータの利用

① 貸出・返却

個人カードと本についているバーコードをコンピュータに読みこむことで、貸出を行います。返却を行う時に本からバーコードを読みこむと、それと同時に、コンピュータからは、誰がその本を借りていたか、という記録が消えます。

コンピュータを利用する事によって、個人のプライバシーを確実に守ることができるのです。



▲図8 図書館カード (市立のもの)

② 利用者端末

利用者端末とは、図書館で利用者が利用できるコンピュータの事です。本の著者名や題名を入力することによって、本の有無、置いてある場所を調べることができます。また、もっと大きなテーマ名から、本を探すこともできます。

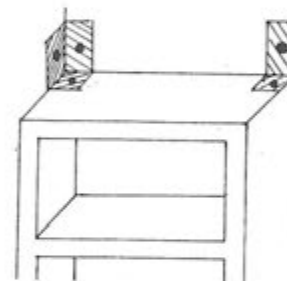
(2) 災害に対する防止策・対処法

① 地震

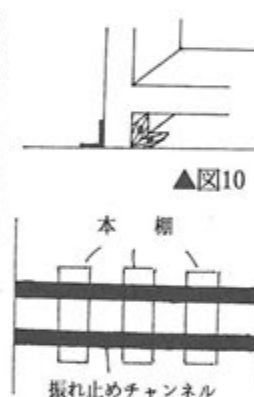
地震に対しての対策として、壁ぎわの棚は上を金具で補強されています(図9)。

壁ぎわではない棚、そなえつてではない棚には、床に対しての補強がされています(図10)。

また、背の高い本棚は、振れ止めチャンネルでつなぎ、本棚が将棋だおしになるのを防いでいます(図11)。



▲図9



\*上から見た図

▲図10

② 火災

防災マニュアルを作成しそれを生かした、避難訓練を実施。利用者が安全に避難できるように考えてある。火災が起こってしまった場合は、網目状にある火災シャッターが下りるようになっていて、それによってけむりがましになり、避難しやすくなるそうです。

(3) 障害者への配慮

① 点字ブロック

荒本駅から、府立中央図書館までの間も、きちんと点字ブロックが敷かれています。館中も、入口から、受付・対面朗読室・エレベーターなどまで、点字ブロックが敷かれています。また各階には、点字で図書館の概要を表した触知図が置かれています。

② 対面朗読室

視覚障害のある人に、本を読み聞かせるための部屋です。この部屋の隣にある録音室で、録音図書の製作も行っているそうです。録音図書はその名の通り、本の朗読を録音したもので、主にカセットテープですが、CDも普及してきています。そのカセットテープやCDは、郵送での貸出も行われています。

③ 磁気誘導ループ

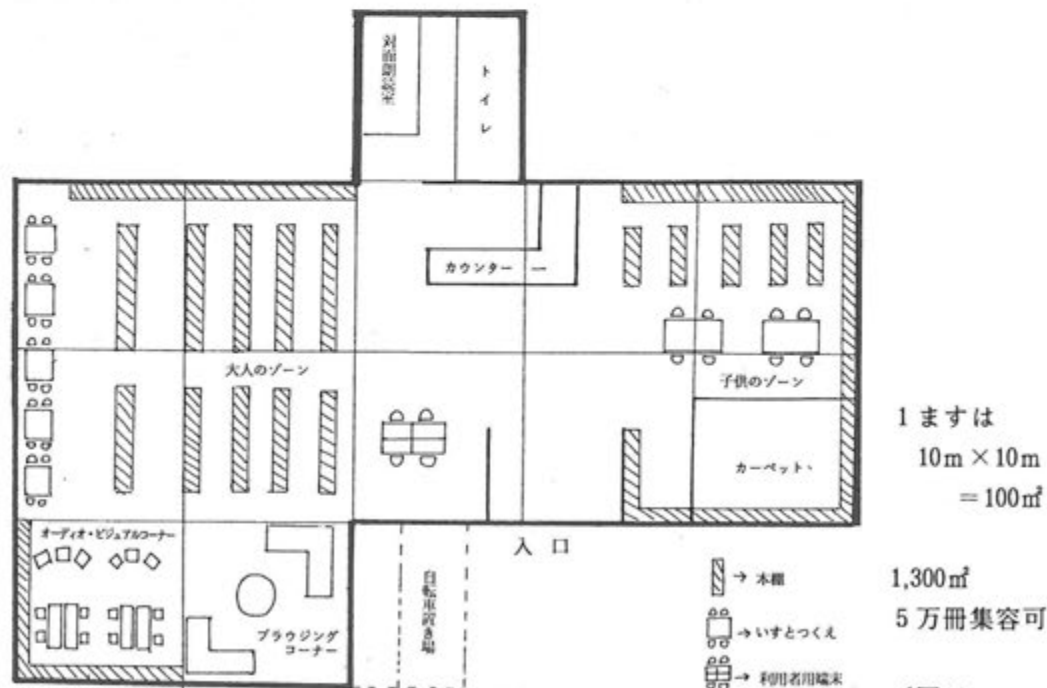
補聴器を使用している人のために、各階カウンターには磁気誘導ループというもの敷設されています。このループがはられていることで、補聴器に入る雑音がカットされて、声がハッキリとクリアに聞こえるそうです。

④ その他

聴覚・言語障害のある人は、ファクシミリによるレファレンスサービスというサービスが受けられます。このサービスは、登録をすると、FAXを使って、図書館に資料があるかどうかという問い合わせ、本の貸出予約などができるといいます。また、来館した時は、職員さんが筆談・手話で対応して下さるそうです。

心身障害などによって来館が困難な人は、登録をして、電話などで名前と希望図書を伝え、本を郵送してもらうサービスを受けることができます。貸出期間は郵送の往復日数をふくめて5週間で、郵送料は図書館が負担とのこと。

IV 考察・私の考える、みんなの図書館 -公園の中の町の図書館-



本棚は利用しやすいように30cm隔6段で、下段をとりのぞいたもの。

1連寸法90cmの棚に、一般書で30冊・児童書で50冊入ると考え、大阪市立図書館の平均冊数の5万冊が入るように設定しました。本棚の間は全て2mに。この幅ぐらがあると、車イスでも楽に通れるようです。

-各部分の説明-

① 入口まわり

利用者の心理的な抵抗にならないように開放的に。雨天に備えてのカサ立て、図書館が閉館している時必要な返却ポストはかかせません。この入口は広さに余裕を持たせて、いろいろな物の展示、通知や公報の掲示としても使えるように考えました。また、入口を含む、通りに面した面は全てガラス張りという設定に。

② ブラウジングコーナーオーディオ・ビジュアルコーナー

ブラウジングコーナーとは、新聞・雑誌などを置いた軽図書コーナー。オーディオ・ビジュアルコーナーは、カセット・CD・ビデオを置いたコーナー。どちらもゆったりとくつろげるように、ソファなどを置きます。外部から見えるところに設置することで、その魅力的な雰囲気を通して人々を引きつける役割も果たすそうです。

③ カウンター

カウンターの位置としては、人の出入りがチェックしやすい入口の近くにあることが多いようで、この場合もそうしました。B.D.Sという、本を無断で持ち出すと警告音を発するシステムを取り入れると、警告音を発した時にすぐその場に行けるよう、必ず入口の近くでないといけません。

④ 子供のゾーン

右下のカーペットのスペースを。ここでは、お話し会や紙しばいを行います。カーペットの周りの絵本用本棚は2段、ほかは4段に設定。

子供のゾーンは児童室として前は入口まで分けている図書館もありました。けれど、母子づれにとって使いにくい・年令的に移行期の中学生は、どちらにも行かないといけない、などの理由から、入口から分けることは少なくなりました。ただやはり、子供のゾーンはうるさくなりがちなので、配慮は必要だそうです。

⑤ その他

大人のゾーンはいすと机を多く設置。対面朗読室は3つ分のスペースをとっています。入口からもカウンターからも近い中央奥に設置しました。やはり静かな場所が望ましいようなので、開架室からは少し離しました。

外の自転車置き場は、今回調べている中で、地域の図書館として根づくためには必要不可欠だと思い、広めに考えました。また、建物の場所を、あえて目立たない公園にしたのは、環境を重視したからです。

